

都市セグリゲーションと貧困地区における新たな親密圏の可能性

— ヨーロッパ、日本、アジアの大都市国際比較 —

Urban Segregation and the Possibility of a New Intimate Sphere: International Comparison of Global Cities in Europe, Japan and Asia

川野 英二（京都大学大学院文学研究科グローバル COE 特定助教）

【メンバー】

日下 渉（京都大学人文科学研究所 助教）

ライカイ・ジョンボル（京都大学大学院文学研究科グローバル COE 研究員）

西川 知享（京都大学大学院文学研究科グローバル COE 研究員）

木場 紗綾（神戸大学国際協力研究科 博士後期課程）

濱西 栄司（京都大学大学院文学研究科 博士後期課程 / 日本学術振興会 特別研究員）

【ねらいと目的】

本研究は、ヨーロッパと日本、アジアにおける大都市において進んでいるマクロな社会変動を「セグリゲーション」の視点からとらえると同時に、貧困地域の住民たちの生きられた経験と試練、そしてそれに対抗する新たな親密圏の可能性をミクロな視点からとらえることを目的とする。地域は、日本国内とアジア（フィリピン、タイ、台湾など）を主な対象とし、それぞれの地域をフィールドとする研究者たちが共同研究を行うことによって、貧困の比較研究のプラットフォームを構築することをねらいとしている。

各地域を研究対象としているメンバーは、それぞれの関心に応じてフィールド調査を実施すると同時に、フィールドにおいて統計データを入手し、GIS（地理情報システム）によってそれぞれのフィールドの社会地図を作成する。このように、各自のフィールドをよりマクロな社会構造との関連においてとらえることにより、さらに他の地域と比較する可能性が開かれるはずである。

【活動の記録】

・フィールド調査は各自の研究関心とフィールドに応じて実施した。

川野 （大阪、川崎、マニラ）

日下 （マニラ）

西川 （三河地方）

木場 （マニラ、バンコク）

濱西 （イタリア等）

また、期間中は「都市貧困研究会」を組織し、学外の研究者を招いて 2 回の公開研究会を開催した。

・2009年7月17日 研究会「グローバル化とマイノリティ」

報告者

内海博文（追手門学院大学社会学部 講師）「グローバル化と社会の変容」

木場紗綾（神戸大学国際協力研究科 博士後期課程）

「フィリピン・タイの都市貧困問題と国際的ネットワーク」

・2010年2月5日 研究会「貧困とジェンダー格差の比較分析」

報告者

野原博淳（フランス国立科学研究センター（CNRS）／労働経済社会学研究所）

“Gender and Wage Gaps: Comparison between France and Japan”

大山小夜（金城学院大学）「愛知の貧困と排除：愛知派遣村調査から」

西川知亨（京都大学）「地方都市における「貧困」に対する社会的組織化の研究」

堤圭史郎（大阪市立大学）

「大阪の貧困と排除：若年不安定就労・不安定住居者聞き取り調査から」

【成果の概要】

- 当初の目的であった GIS による社会地図の作成は、日本国内（川崎、大阪、三河地方）においては完成度の高いものができあがった。
- 西川がフィールドとする三河地方の社会地図作成では、対象地域において製造業従事者比率が極めて高く、派遣切りの影響を強く受けやすい地域であることが確認できた。
- 海外の社会地図については、地図データや統計データの入手困難な地域があったものの、台北とマニラの社会地図を完成させることができた。
- 台北の社会地図は小地域統計データを入手できなかったものの、区別の地図を作成し、さらに家族や職業のデータを用いて統計解析を行い、地区類型を作成することができた。また、家族・職業構造と居住構造において明確なセグリゲーションを確認することができた。
- マニラでは職業や家族のデータを入手できなかったものの、貧困に関する統計を入手し、市区別の地図を作成することができた。ここでは日下、木場、川野がフィールドとしてきた地域、とくにナボタス地区のセグリゲーションの程度が極めて高いことを確認することができた。
- 川野・木場のマニラ調査では、貧困地区の住民組織の活動においては女性の役割が極めて強く、こうした特徴は住民運動における親密な関係を形成する基盤となっていることが確認できた。こうした特徴は川野が調査してきたフランスの貧困地域とも共通しており、今後の比較研究において有意義な視点を獲得することができた。また不法占拠状態であるナボタス地区のスラムでは行政による撤去や住民との諍いに立ち会う機会に遭遇し、貧困地区の住民たちが極めて不安定な生活状況にあることを確認することができた。

